

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム和(南ユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭66		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	平成26年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokansaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosvoCd=2278300261-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含め、その人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。利用者が最期までゆったりとおだやかに過ごしていただけるよう医療と連携し、看取りに取り組んでいる。また、地域の保育園と行事をいっしょに行ない交流をしたり、地域のお祭りには屋台が事業所に立ち寄ってくれたり地域に根ざしたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者が安心して自分らしく暮らし続けるために自分達ができることは何だろう」と、日頃から職員一人ひとりが真剣に考え、看取りにおいても最後まで寄り添うという想いをもっています。本年度は続いて4名のお見送りとなり、職員一丸で「その人らしい終末への取り組み」を実践し、特に精神面での著しい成長がありました。また、日々の暮らしの中では地域交流における刺激の機会を積極的に設け、保育園とは一緒にスイカ割りや敬老会、いも掘りやクリスマス会などを合同行事として楽しんでいます。男性職員が6名と多くいることからクリスマスにはサンタ役で園を訪問して、常の感謝を伝え喜ばれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示しいつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し徹底して日常のケアの実践につなげている。	ユニット会議、全体会議、勉強会が各月1回あり、その都度理念である「その人らしい生活とはどういうことか」について職員全員で考え話し合っています。新入社員にはマンツーマンで説明し、個々に合わせたケアを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学生の福祉体験を受け入れたり、保育園の園児さんといっしょに行事を行い、交流を深めている。また、地域の事業所としてお祭りの屋台を招いたり防災訓練など自治会の行事にも参加している。	ボランティアは歌や手品の他、本年は初めて大正琴の訪問もありました。中学生の福祉体験受入、行事毎の保育園児の来訪も利用者の笑顔をふくらめています。ハロウィン時には近所の子どもたちが仮装で立ち寄ってくれたことから、日頃のオープンな活動が垣間見えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のおたよりを自治会を通じ地域の方に回覧し事業所の様子、認知症や介護についての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、取り組みや現状を報告し、意見を聞きサービスの向上に努めている。また、事業所の困っていることを相談し助言をいただき解決につなげている。	家族を中心に参加を呼び掛ける回もあります。前回は盛況で、嚥下状態に合わせたきざみ食、とろみ食の試食説明会で家族に理解と安心を届けることができました。普段の開催では地域の情報を貰ったり、また満床につながった例もあります。	運営推進会議開催が3ヶ月毎の年4回のため、順々に増やし、2ヶ月毎に開催出来ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に「和だより」を届け、事業所の日常の様子をお知らせしている。また、運営推進会議に参加していただき事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、市からの情報を教えていただき協力関係を築いている。	介護保険の申請や運営推進会議の案内、議事録提出にと積極的に向き、気軽に相談できる関係となっています。行政職員は介護保険の更新手続きが遅れていることを報告してくれたりたりと、大変親切です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、社内研修において学ぶ機会を設け「身体拘束はしない」という意識を職員全体で共有し、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	会議、勉強会の中でも随時取り上げ、年1回研修にも取り組んでいます。場面をあげて見直しを行い、どういう言葉掛けをしたらよいかを検討を重ねています。ベットから落ちる危険のある利用者を介護負担の大きい布団に変更した例からは、安全第一の精神が伝わります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待防止について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互いに注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んではいるが、現在必要な利用者はおらず、今後に備えさらに理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはお便りや面会時に利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に意見や要望を聞くようにしている。出された要望は職員会議にて話し合い、ケアや運営に反映させるよう努めている。	週1回のペースで訪問する家族が多く、毎日という家族も居て利用者の日頃の様子を直に伝えることができている。意見を聞く機会を豊富に設けていますが、それでも事情で来れない家族には毎月1回電話で近況報告し意見、要望を仰いでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談、アンケートなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見や考えを言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし相談を受け、意見を反映させている。	個人面談を年1回行い、また職員に意見や提案がある場合はその都度面談しています。また職員一人ひとりが“係”を担当することで責任を持って運営に参加しています。取り組んだ行事を觀賞できて皆を楽しませているDVDは職員の提案から購入したものです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にケアの現場を見て職員のケアや業務の様子を把握している。また、親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援をするなど職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し職員全員が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークをつくり、他事業所を訪問したり、職員相互に意見を交換したりして日常のケアに活かしサービスの質を向上するため取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人と面接をし、心身の状態や困っていること、要望などを聞き本人が安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認し話し合う中で必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくいっしょに行なうよう心がけている。利用者から教えていただいたり、助けていただくことも多く、事業所の理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりや面会時に利用者の思いや様子を家族に伝え、家族の思いやできることを話し合い共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーや喫茶店、美容院などなじみの場所へ行くことができるよう、職員・家族が支援している。また、親戚や友人の訪問もあり馴染みの関係が継続できるよう支援している。	友人の訪問も多く、馴染みの場へは職員が付添っています。酒や煙草を嗜む利用者もいて、スーパー内の喫茶コーナーや好みのメニューを求めて喫茶店へと、それぞれの馴染みや要望に沿った支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が把握し、孤立せず、うまく関われるよう職員が間に入って支えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた際には、当事業所での生活の状況などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で会話や表情から利用者の思いを汲み取るよう心がけ、職員が共有し適切な支援につなげている。	会話が可能な利用者にはじっくり話を聴き、本人が望んでいることをくみ取ります。丁寧に傾聴することで暴力的な態度から落ち着いてもらえたこともありました。会話のやりとりが難しい利用者とは表情や動きから想いを把握し、イエス・ノーで選択できる質問や声掛けを工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活や好きなものなどを聞き、その人をより理解することにより、その人らしい暮らしを続けられるような支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、本人ができることを継続できるよう支援している。また、心身状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心して暮らせるために、職員全員で話し合いケアの方法を考えている。家族の思いや意見、必要であれば医師や看護師の意見も交え、計画作成担当者が介護計画を作成している。	ユニット会議で担当職員の提案を中心に全職員のモニタリング意見を収束しながら、介護計画作成担当者が作成しています。毎日看護師の訪問があり、変化があった時には直ちに変更しており、柔軟な対応がみられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や本人の思いが伝わる言葉、ケアプランに基づいたケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し毎日のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状況を把握し、家族と相談し、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域の中で暮らし続けたいけるよう運営推進会議にて自治会長や民生委員と意見を交換し、ケアに反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が事業所の協力医に変更し、週1回の医師の住診と毎日の看護師の訪問があり安心できる連携が整っている。また、家族と協力し眼科や皮膚科、歯科医院、精神科など専門医への受信もできるよう支援している。	契約時に協力医への変更をお願いしています。毎朝職員がバイタルチェックを行い、毎日の看護師訪問時には処置が必要で無い利用者も週に1回の頻度で確認を受け、健康管理上安心です。また、24時間対応である点においても心強い体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、本人を支援する情報を提供し、家族と協力し回復状況など情報交換をしながらスムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を家族に説明し、早い段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、再度意向を確認し、納得した上で終末期を迎えられるよう職員に何がができるか話し合い、医師の指導を受け看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについては契約時に家族の意向を聞き、重度化した際にもう一度確認をとっています。「最後までお世話したい」と云う想いで全職員が看取りに取り組む姿に、管理者はプロ意識の向上とメンタル面の成長を感じ、誇らしく思っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて職員に周知徹底を図りマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行ない利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう努めている。また、運営推進会議にて災害時の対策について話し合い、地域の協力も得られるよう体制を築いている。	2、3ヶ月に一回事業所訓練を行っています。昼夜設定を替えた火災想定が主ですが、通報訓練は毎回実施しています。地域の防災訓練に参加し、有事の際の協力関係も出来ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、一人ひとりに合わせ人格を尊重しながら接している。また、その方が理解しやすい言葉掛けや対応をするよう努めている。	一人ひとりの生活歴を背景に、利用者の尊厳を大切に、相手の好みに寄り添った言葉掛けを心がけています。男性利用者の失敗にプライドを傷つけないよう女性職員が対応し、また男性職員は敬語で接する場面に遭遇し、気を配っていることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを汲み取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるよう声掛けをし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なおおよその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせており、自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が考え支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりの摂取状態に合わせて、調理師が作っている。また、季節に合った行事食や誕生日食など食事が生活の中の楽しみとなるよう支援している。できる方には食器を洗っていただくなど片付けを職員と一しよに行なっている。	誕生日食は本人のリクエストや好きなものを織り交ぜ調理しています。プロの手による食事はわかりやすい利用者も多く賑わいのある食卓です。嚥下状態に合わせて、きざみ、とろみ、ソフト、普通食を用意し、嫌いなものがあれば別メニューを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作り、適切な食事形態にて提供している。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、脱水予防などの健康状態にも留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に合わせて、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行ない、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。また、日中はハビリパンツから通常のパンツに変えるなど自立にむけた支援を行なっている。	ADLの低下により自らトイレに行ける利用者も少ない状況ですが、タイミングを見計らった声掛けで、寝たきりの利用者以外全員が布パンツで過ごせています。自宅ではオムツだったのにリハパンに改善した例は多数あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分摂取、適度な運動を働きかけ、その方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、できる範囲で利用者の希望する時間に入浴ができるよう支援している。また、入浴困難な方には清拭をし清潔を保ち、気分転換を図れるよう支援している。	毎日お湯を沸かし1日中好きな時間で自由に入浴できます。マンツーマン介助のため職員との会話も弾み入浴を楽しめていますが、時には変わり湯として入浴剤を使ったり、ゆず湯で季節感を味わったりして気分をかえる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせて、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な寝具で安心して眠れるよう環境面にも気をくばり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば看護師に伝え、その都度適切に対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を十分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。また、食べたいものを職員といっしょに買いに行ったり、外食をしたり気分転換を図る支援も行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って買い物や外食、ドライブなど外出できるよう支援している。また、自宅に行ったり、親族に会いに行ったり家族といっしょに出かけられるよう支援している。	外出は買い物によく行きます。ドライブがてら近郊の大型スーパーに出掛けたり、イベントとして藤を見に行ったり、コスモス畑、ペットショップなど希望に合わせた外出をしています。、ファミレス、回転ずし、フードコート、うどん・そばと、外食好きな利用者にも個別にえています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、少額であるが財布に入れて所持し買い物の際は支払いをしていただいている。できない方には職員が介助しているが、買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者はいないが、本人の希望があれば状況に合わせ、電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾ったりしている。また、休息できるようソファを置きつつろいで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある掲示物や行事の写真がたくさん飾っており、共用空間は明るい雰囲気になっています。利用者の現状を勘案しつつテーブルの配置やクロスを変えたりして、使いやすい工夫と変化を楽しむ配慮が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のところどころにソファを置き、独りになられたり、利用者同士で話ができ落ち着いた雰囲気思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者や家族が相談し、使い慣れたものを置いている。また、ベッド使用の習慣がない利用者にはマットを敷いて布団を敷くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	好みにより床に絨毯を敷き、布団で寝ている利用者もいます。テレビや座椅子を持ち込み、使い慣れたタンスの上には家族の写真やぬいぐるみが飾ってある居心地よさそうな部屋もあり、自由度の高さが視えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、目印をつけたり、わかりやすく表示したりしている。危険な箇所は職員が介助し安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム和 (北ユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭66		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	平成26年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosvoCd=2278300261-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含め、その人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。利用者が最期までゆったりとおだやかに過ごしていただけるよう医療と連携し、看取りに取り組んでいる。また、地域の保育園と行事をいっしょに行ない交流をしたり、地域のお祭りには屋台が事業所に立ち寄ってくれたり地域に根ざしたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者が安心して自分らしく暮らし続けるために自分達ができることは何だろう」と、日頃から職員一人ひとりが真剣に考え、看取りにおいても最後まで寄り添うという想いをもっています。本年度は続いて4名のお見送りとなり、職員一丸で「その人らしい終末への取り組み」を実践し、特に精神面での著しい成長がありました。また、日々の暮らしの中では地域交流における刺激の機会を積極的に設け、保育園とは一緒にスイカ割りや敬老会、いも掘りやクリスマス会などを合同行事として楽しんでいます。男性職員が6名と多くいることからクリスマスにはサンタ役で園を訪問して、常の感謝を伝え喜ばれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示いつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し徹底して日常のケアの実践につなげている。	ユニット会議、全体会議、勉強会が各月1回あり、その都度理念である「その人らしい生活とはどういうことか」について職員全員で考え話し合っています。新入社員にはマンツーマンで説明し、個々に合わせたケアを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学生の福祉体験を受け入れたり、保育園の園児さんといっしょに行事を行い、交流を深めている。また、地域の事業所としてお祭りの屋台を招いたり防災訓練など自治会の行事にも参加している。	ボランティアは歌や手品の他、本年は初めて大正琴の訪問もありました。中学生の福祉体験受入、行事毎の保育園児の来訪も利用者の笑顔をふくらめています。ハロウィン時には近所の子どもたちが仮装で立ち寄ってくれたことから、日頃のオープンな活動が垣間見えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のおたよりを自治会を通じ地域な方に回覧し事業所の様子、認知症や介護についての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、取り組みや現状を報告し、意見を聞きサービスの向上に努めている。また、事業所の困っていることを相談し助言をいただき解決につなげている。	家族を中心に参加を呼び掛ける回もあります。前回は盛況で、嚥下状態に合わせたきざみ食、とろみ食の試食説明会で家族に理解と安心を届けることができました。普段の開催では地域の情報を貰ったり、また満床につながった例もあります。	運営推進会議開催が3ヶ月毎の年4回のため、順々に増やし、2ヶ月毎に開催出来ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に「和だより」を届け、事業所の日常の様子をお知らせしている。また、運営推進会議に参加していただき事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、市からの情報を教えていただき協力関係を築いている。	介護保険の申請や運営推進会議の案内、議事録提出にと積極的に向き、気軽に相談できる関係となっています。行政職員は介護保険の更新手続きが遅れていることを報告してくれたりりと、大変親切です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、社内研修において学ぶ機会を設け「身体拘束はしない」という意識を職員全体で共有し、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	会議、勉強会の中でも随時取り上げ、年1回研修にも取り組んでいます。場面をあげて見直しを行い、どういう言葉掛けをしたらよいかを検討を重ねています。ベットから落ちる危険のある利用者を介護負担の大きい布団に変更した例からは、安全第一の精神が伝わります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互いに注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んではいるが、現在必要な利用者はおらず、今後に備えさらに理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはお便りや面会時に利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に意見や要望を聞くようしている。出された要望は会議にて話し合い、ケアや運営に反映させるよう努めている。	週1回のペースで訪問する家族が多く、毎日という家族も居て利用者の日頃の様子を直に伝えることができています。意見を聞く機会を豊富に設けていますが、それでも事情で来れない家族には毎月1回電話で近況報告し意見、要望を仰いでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談、アンケートなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見や考えを言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし相談を受け、意見を反映させている。	個人面談を年1回行い、また職員に意見や提案がある場合はその都度面談しています。また職員一人ひとりが“係”を担当することで責任を持って運営に参加しています。取り組んだ行事を觀賞できて皆を楽しませているDVDは職員の提案から購入したものです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にケアの現場を見て職員のケアや業務の様子を把握している。また、親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援をするなど職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し職員全員が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークをつくり、他事業所を訪問したり、職員相互に意見を交換したりして日常のケアに活かしサービスの質の向上するため取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人と面接をし、心身の状態や困っていること、要望などを聞き本人が安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認し話し合う中で必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくいっしょに行なうよう心がけている。利用者から教えていただいたり、助けていただくことも多く、事業所の理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりや面会時に利用者の思いや様子を家族に伝え、家族の思いやできることを話し合い共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーや喫茶店、美容院などなじみの場所へ行くことができるよう、職員・家族が支援している。また、親戚や友人の訪問もあり馴染みの関係が継続できるよう支援している。	友人の訪問も多く、馴染みの場へは職員が付添っています。酒や煙草を嗜む利用者もいて、スーパー内の喫茶コーナーや好みのメニューを求めて喫茶店へと、それぞれの馴染みや要望に沿った支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が把握し、孤立せず、うまく関われるよう職員が間に入って支えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた際には、当事業所での生活の状況などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で会話や表情から利用者の思いを汲み取るよう心がけ、職員が共有し適切な支援につなげている。	会話が可能な利用者にはじっくり話を聴き、本人が望んでいることをくみ取ります。丁寧に傾聴することで暴力的な態度から落ち着いてもらえたこともありました。会話のやりとりが難しい利用者とは表情や動きから想いを把握し、イエス・ノーで選択できる質問や声掛けを工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活や好きなものなどを聞き、その人をより理解することにより、その人らしい暮らしを続けられるような支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、本人ができることを継続できるよう支援している。また、心身状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心して暮らせるために、職員全員で話し合いケアの方法を考えている。家族の思いや意見、必要であれば医師や看護師の意見も交え、計画作成担当者が介護計画を作成している。	ユニット会議で担当職員の提案を中心に全職員のモニタリング意見を収束しながら、介護計画作成担当者が作成しています。毎日看護師の訪問があり、変化があった時には直ちに変更しており、柔軟な対応がみられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や本人の思いが伝わる言葉、ケアプランに基づいたケアの実践を個別に記録し、職員間で情報を共有し毎日のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状況を把握し、家族と相談し、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域の中で暮らし続けたいけるよう運営推進会議にて自治会長や民生委員と意見を交換し、ケアに反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が事業所の協力医に変更し、週1回の医師の住診と毎日の看護師の訪問があり安心できる連携が整っている。また、家族と協力し眼科や皮膚科、歯科医院、精神科など専門医への受診もできるよう支援している。	契約時に協力医への変更をお願いしています。毎朝職員がバイタルチェックを行い、毎日の看護師訪問時には処置が必要で無い利用者も週に1回の頻度で確認を受け、健康管理上安心です。また、24時間対応である点においても心強い体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、本人を支援する情報を提供し、家族と協力し回復状況など情報交換をしながらスムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を家族に説明し、早い段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、再度意向を確認し、納得した上で終末期を迎えられるよう職員に何がができるか話し合い、医師の指導を受け看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについては契約時に家族の意向を聞き、重度化した際にもう一度確認をとっています。「最後までお世話したい」と云う想いで全職員が看取りに取り組む姿に、管理者はプロ意識の向上とメンタル面の成長を感じ、誇らしく思っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて職員に周知徹底を図りマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行ない利用者が安全に避難できる方法を身につけるよう努めている。また、運営推進会議にて災害時の対策について話し合い、地域の協力も得られるよう体制を築いている。	2、3ヶ月に一回事業所訓練を行っています。昼夜設定を替えた火災想定が主ですが、通報訓練は毎回実施しています。地域の防災訓練に参加し、有事の際の協力関係も出来ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、一人ひとりに合わせ人格を尊重しながら接している。また、その方が理解しやすい言葉掛けや対応をするよう努めている。	一人ひとりの生活歴を背景に、利用者の尊厳を大切に、相手の好みに寄り添った言葉掛けを心がけています。男性利用者の失敗にプライドを傷つけないよう女性職員が対応し、また男性職員は敬語で接する場面に遭遇し、気を配っていることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを汲み取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるよう声掛けをし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なおおよその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせており、自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が考え支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりの摂取状態に合わせ、調理師が作っている。また、季節に合った行事食や誕生日食など食事が生活の中の楽しみとなるよう支援している。できる方には食器を洗っていただくなど片付けを職員と一しよに行なっている。	誕生日食は本人のリクエストや好きなものを織り交ぜ調理しています。プロの手による食事はわかりやすい利用者も多く賑わいのある食卓です。嚥下状態に合わせ、きざみ、とろみ、ソフト、普通食を用意し、嫌いなものがあれば別メニューを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作り、適切な食事形態にて提供している。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、脱水予防などの健康状態にも留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行ない、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。また、日中はハビリパンツから通常のパンツに変えるなど自立にむけた支援を行なっている。	ADLの低下により自らトイレに行ける利用者も少ない状況ですが、タイミングを見計らった声掛けで、寝たきりの利用者以外全員が布パンツで過ごせています。自宅ではオムツだったのにリハパンに改善した例は多数あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分摂取、適度な運動を働きかけ、その方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、できる範囲で利用者の希望する時間に入浴ができるよう支援している。また、入浴困難な方には清拭をし清潔を保ち、気分転換を図れるよう支援している。	毎日お湯を沸かし1日中好きな時間で自由に入浴できます。マンツーマン介助のため職員との会話も弾み入浴を楽しめていますが、時には変わり湯として入浴剤を使ったり、ゆず湯で季節感を味わったりして気分をかえる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせて、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な寝具で安心して眠れるよう環境面にも気をくばり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば看護師に伝え、その都度適切に対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を充分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。また、食べたいものを職員といっしょに買いに行ったり、外食をしたり気分転換を図る支援も行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って買い物や外食、ドライブなど外出できるよう支援している。また、自宅に行ったり、親族に会いに行ったり家族といっしょに出かけられるよう支援している。	外出は買い物によく行きます。ドライブがてら近郊の大型スーパーに出掛けたり、イベントとして藤を見に行ったり、コスモス畑、ペットショップなど希望に合わせた外出をしています。、ファミレス、回転ずし、フードコート、うどん・そばと、外食好きな利用者にも個別に応えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、少額であるが財布に入れて所持し買い物の際は支払いをしていただいている。できない方には職員が介助しているが、買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者はいないが、本人の希望があれば状況に合わせ、電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾ったりしている。また、休息できるようソファを置きつつろいで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある掲示物や行事の写真がたくさん飾っており、共用空間は明るい雰囲気になっています。利用者の現状を勘案しつつテーブルの配置やクロスを変えたりして、使いやすい工夫と変化を楽しむ配慮が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のところどころにソファを置き、独りになられたり、利用者同士で話ができ落ち着いた雰囲気思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者と家族が相談し、使い慣れたものを置いている。また、ベッド使用の習慣がない利用者にはマットを敷いて布団を敷くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	好みにより床に絨毯を敷き、布団で寝ている利用者もいます。テレビや座椅子を持ち込み、使い慣れたタンスの上には家族の写真やぬいぐるみが飾ってある居心地よさそうな部屋もあり、自由度の高さが覗えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、目印をつけたり、わかりやすく表示したりしている。危険な箇所は職員が介助し安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		